

研 修 報 告 書

令和 8 年 8 月 3 日

松阪市議会議長 濱口 高志 様

報告者 松阪市議会議員 田中正浩

1 研修の概要

- (1) 研修名 「元財務職員・元議員が教える決算審査の実践ポイント」
- (2) 受講日 令和 8 年 7 月 21 日
- (3) 開催場所 京都 JA ビル 京都府京都市南区東九条西山王町 1 番地
- (4) 主催者 地方議員研究会
- (5) 講師 黒瀬雄大 氏

2 研修内容

【午前の部】午前 10 時から午後 0 時 30 分まで

「決算のどこを見る～議員のための決算審査入門」

- ① 決算審査で最初に押さえるべき全体の見方
- ② 歳入・歳出の流れから自治体財政を読み解く
- ③ 監査と議会質疑の違い及び適切でない質問の事例
- ④ 数字に強くなくても実践できる決算チェックの基本

午前の講座では、決算書の個々の数字だけを見るのではなく、まず歳入・歳出の全体像や前年度からの変化を把握し、その上で個別事業を確認することの重要性を学んだ。

また、監査委員による監査と議会による決算審査とは、それぞれ役割が異なることについて説明を受けた。議会の決算審査では、会計処理の適否を確認するだけでなく、予算が当初の目的に沿って執行されたのか、市民にどのような成果をもたらしたのか、執行上の課題を次年度以降どのように改善するのかという視点が必要であることを学んだ。

【午後の部】午後 1 時 30 分から午後 4 時まで

「意味のない質疑からの卒業を～決算審査の質問力と指摘力」

- ① 決算審査で活用できる質問の切り口
- ② 成果とコストの両面から事業を検証する視点
- ③ 決算審査に活用できる資料とその所在
- ④ 実践的な質問事例と効果的な質問手法
- ⑤ 次年度予算につなげる決算審査のまとめ方

午後の講座では、単なる事業内容や決算額の確認にとどまらず、事業の目的、実績、成果、費用及び課題を関連づけて質問する方法を学んだ。

特に、決算額の大小だけで事業を評価するのではなく、投入した費用に対してどのような成果が得られたのか、対象となる市民に必要な行政サービスが届いたのか、より効果的・効率的な実施方法がなかったのかという観点から検証することが重要である。

さらに、決算審査で明らかになった課題を指摘するだけで終わらせず、その改善内容を次年度の予算編成や事業実施につなげることが、議会の決算審査に求められる役割であるとの説明を受けた。

3 研修を受講しての所感

今回の研修を通じ、決算審査は、既に支出された金額を形式的に確認するためだけのものではなく、市が実施した事業の成果と課題を検証し、その結果を今後の施策や次年度予算へ反映させるための重要な機会であると再認識した。

決算審査においては、説明書に記載された数字をそのまま確認するだけでは、事業の実態や課題を十分に明らかにすることはできない。予算額と決算額の差、前年度との比較、不用額や執行率、事業量、成果指標などを確認した上で、その増減や結果が生じた理由を掘り下げる必要がある。

質問についても、単に「なぜこの金額になったのか」と尋ねるだけでなく、「事業の目的は何か」「どのような成果があったのか」「当初の目標を達成したのか」「達成できなかった原因は何か」「次年度にどのように改善するのか」と段階的に組み立てることが、実効性のある決算審査につながると感じた。

4 今後の議員活動への活用

今後の松阪市議会における決算審査では、次の点を意識して取り組みたい。

- ① 決算全体の状況を把握した上で個別事業を検証する。
- ② 予算額、決算額、前年度実績及び執行率を比較する。
- ③ 事業費だけでなく、事業によって得られた成果を確認する。
- ④ 目標と実績に差がある場合は、その原因と改善策を確認する。
- ⑤ 決算審査で明らかになった課題を次年度予算の審査につなげる。

今回学んだ決算書の見方と質問の組み立て方を活用し、市民にとって事業の必要性や効果が分かる決算審査となるよう努めるとともに、限られた財源が市民生活の向上に効果的かつ効率的に活用されているかを、議会の立場から検証していきたい。

（研修会で松阪市について取り上げていただき講義を受けた）

